

八戸工業大学第一高校 大坂敏輝

私は今回の高校生による海外エネルギー事情研修会に参加して、たくさんのことを学ばせていただきました。

事前研修では、原子燃料サイクル施設や、東通原子力発電所を見学し日本の原子力発電事情を学ぶことができました。さらにプレゼンテーションや、自己紹介を考えるうえで、自分のことをどうやって伝えればいいのか、相手にわかりやすく伝えるにはどうしたらいいのかなど、日本語の通じない人たちへの伝え方を学ぶことができました。

実際に海外研修に行ってみると、今までに経験したことのないことばかりでした。当たり前ですが、言葉が通じません。また、日本の常識は、海外の常識ではないことも痛感しました。

私が、この研修で一番印象に残っていることは、高校生との交流です。フランスでのグリニャール高校との交流は、一番最初の交流会ということもあり、とても緊張しました。

最初のティータイムは、とても緊張して全く話すことができなかつたのを覚えています。そこで、自己紹介では、思い切って発表しようと思い、元気よく自分を知ってもらおう努力をしました。すると現地の高校生は、とても興味があると言ってくれました。このことから相手に自分を受け入れてもらうにはまず自分から積極的に行動することが大切だと知ることができました。しかし、言葉の壁はとても大きいものでした。自分が言いたいことを英語で表現するのは難しく、なかなか会話が進まなかつたのです。いま、自分が勉強しているレベルの英語では、全く歯が立ちませんでした。

午後からのディスカッションでは、お互いの国の抱えるエネルギー問題について話し合いました。驚いたのは、フランスの高校生は、自国のエネルギー事情についてとても詳しく知っていて、さらにそのことについて自分の意見を持っていたのです。そしてそれを積極的に発表していました。これは、日本の高校生も見習はなくてはいけないことだと思います。

文化交流では、みんな日本の文化に興味があるようでした。そのほかにもメールを交換したり写真を撮ったりと楽しい時間を過ごすことができました。

二か所目の訪問先となった、スウェーデンのカテドラル高校では、少人数ということもあり、グリニャール高校よりも楽に会話することができました。また、三日も共に行動したので、とても絆が深まりました。別れの時は、とても悲しく泣いてしまいそうでした。

また、今回の研修ではたくさん歴史的建造物を見ることができました。モンサンミッシェルや、エッフェル塔、凱旋門、ヴェルサイユ宮殿、ノートルダム寺院、大聖堂カテドラル。どれも素晴らしい建物で、貴重な財産となりました。昔の人たちの偉大さをあらためて感じました。

また食の違いも感じることができました。日本では刺身として生の魚を食べますが、フランスや、スウェーデンでは基本的に焼き魚です。そのほかにも、その国の文化や、風

習によってもテーブルマナーや、調理法が違うことを体感しました。

今回の研修で学んだことの一つが、英語力です。海外の高校生は、母国語はもちろんですが、そのほかに英語やスペイン語、ドイツ語、日本語など、たくさんの言葉を勉強しています。日本人はというと日本語と、英語が少し話せるだけです。実際に行ってみてもっと英語を勉強しなければいけないと感じました。

また、エネルギー事情についても、もっと日本の現状を知りこれからどうしていかねばいけないかを僕たち若い世代が考えていかねばいけないと思います。私たちは、実際に海外のエネルギーを勉強してきた者として、その先頭に立ち、引っ張っていかねばならないと思います。

最後に、この研修に参加させてくれた親や、選んでくださった方々、引率してくれた大人の方々に感謝したいと思います。そして、この貴重な経験をこれからの人生に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。